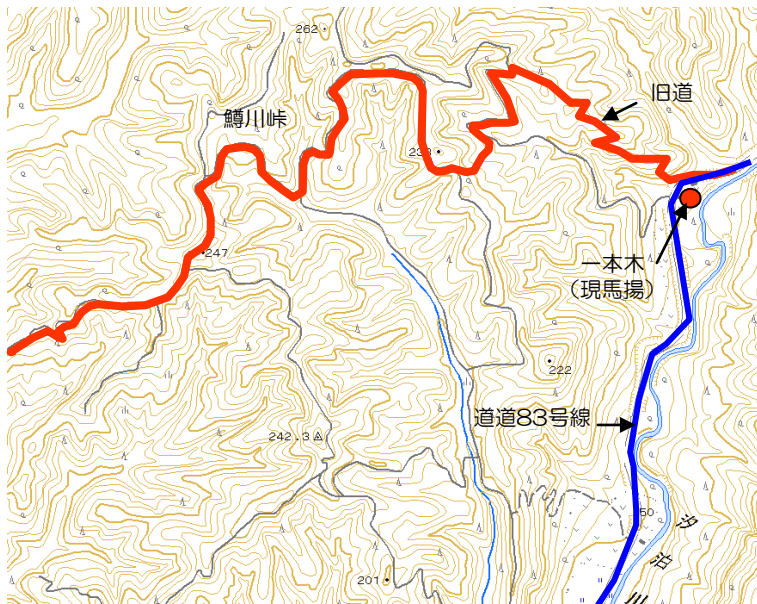
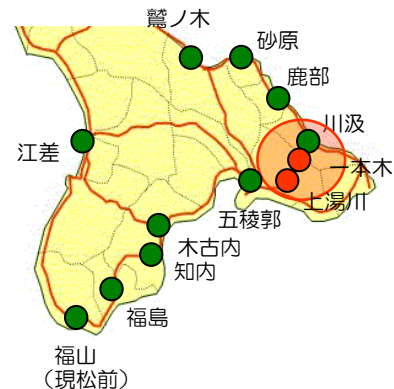


一本木（現馬場）～鱒川山道～上湯川の道



一本木～鱒川峠の道



鱒川峠の入り口

一本木（現馬場）から鱒川峠を越えて上湯川に出る道は、矢別トンネルを抜けて函館方面に少し進むと、大きな左カーブがあり、この左側に民家がある。この家の向かいのガードレールの中にある。

この辺りは大正道路の時にはバスが通っていたので、橋の基礎石が残されている。

旧道の入口は分かりにくいですが、ガードレールを越えた左手の斜面にある。良く見れば少し凹んだ地形になっており、ここを登れば、はっきりとした旧道が現われる。



一本木～上湯川の道

道はジグザグになって登っていく。道の途中の左側は深い谷になっており、冬は危険も伴った事だろう。

道の一部は雨水などによって、決壊している場所もあるが、ここは適当な斜面を迂回していけば、上の道に出られる。

坂を登り切れば尾根道が続く。急な斜面を登った後の尾根道を歩くのは気持ちが良い。でも旧道らしさが残るのはここまで、尾根道から少し登れば、車の通れるダートの中の広い道に突き当たる。

この道は森林の伐採などの使われる道で、右に行けばかなり降りてから行

き止まりになる。旧道は左に少し登ってから下る。カーブを3つほど曲がると正面が二股になる。左の道は新しい道で、一本木（現馬場）のカーブの所に出る。

ここは右側の緩い登りの道に行く。この道を道なりに登って行くとピークになる。道はここから一気に下る。沢の地形に沿った道をどんどん下って行って、今度は登りになる。

この辺りもダート道だが相変わらず車も通れる、良い道が続く。登りのカーブの内側には旧道跡が少し残っているのが見える。やがてピークに達して広い場所に出る。ここが鱒川峠なのだろうか？鱒川峠ははっきり位置を書いたものが見当たらないので特定が難しい。



鱒川峠の登り



林道は歩きやすい



急坂を登れば平坦な尾根に出る

鱒川峠～上湯川の道



鱒川峠～上湯川の道

景色の良い高台を少し進むと、牧場のゲートが左側にある。この前を歩いて少し行くと、針金が張ってあるので車は通れないが、歩くのは問題ない。

ここを過ぎて少し行けば見晴らしの良い場所に出る。ここからは殆ど平坦な道が続く。道の右手には山々が見え、展望の良い所だ。

ここからは多少のアップダウンはあるが、全体的には下りの道になる。道は林道が整備されて車も通れる道になっている。道なりにどんどん下がると良い。

途中、鱒川に抜ける道がいくつか地図上にある。尾根を通過して鱒川の神社に至る道、民家の辺りから鱒川の神社に抜ける道があるが、一般的ではなく土方隊が通った可能性は低いので省略する。

峠を下って最初に出てくる民家の前を通りさらに緩い坂を下る。再び右手に民家が出てくる。この向いに道があり、廃家が1軒あり、この間に道がある。



景色の良い場所に出てほっとする

昔の地図でも道は真っ直ぐではなくここを曲がっている。推定だが当時は真っすぐ行くと広い沢が谷地になっていて歩くのが困難で迂回したのではないか。

迂回路を進んで下ると団助渡とある。ここで沢を渡ったのだろうか。宿陣したのは上湯川とあるので、一度高台に出てから下りて上湯川の集落に宿陣したのだろう。

宿陣の際、四方に斥候や番兵を出し、山々峰々に篝火を焚いている。この場所は裏手の高台の団助部落（現旭岡団地）だと考える。

星日記では箱館の火災が確認されている。ここは箱館が一望できる場所だ。団助渡から旭岡を経由して上湯川に出る道は、ここに大きな団地が出来たので、古い道はすっかり変わってしまい、旧道は全く分からなくなった。ここは舗装された車道を通って上湯川に行こう。



高台から函館山が見える。当時は家が殆ど無かったので、千代ヶ岡陣屋の火災も確認されたであろう